

## 団体の概要 (NGO/NPO)

団体名 (申請中) 特定非営利活動法人  
 関西修景自由作家連合 [NPO KALALA]

所在地	〒550-0011 大阪市西区阿波座 1-3-18 エッグビル本町 TEL:06-6532-8512 FAX:06-6532-8543 E-mail:		
ホームページ			
設立年月	1993年4月*認証年月日(法人団体のみ) 2003年12月(予定)日		
代表者	藤田 好茂	担当者	橋本 庄弐
組織	スタッフ 名(内専従 名) 個人会員 15名 法人会員 0名 其他会員(賛助会員等) 200名		
設立の経緯	<p>関西を中心に活動する造園関係者の有志は、21世紀の造園界を展望して業界の発展を図るため、1993年の見学会を発端にKALALAを結成した。</p> <p>その後、造園関係業5団体が設立されるに伴い、活動の向上展開を実現させる努力をして来たが、その間この活動に対して市民の支持ないし参加の気運の高まりを受けてNPO設立の運びとなった。</p>		
団体の目的	<p>美しい国土の保全を継承すると共に、生活環境の景観整備に積極的な市民と協力し、国内外の関係組織とも交流を保ちつつ「水と緑」による風のランドスケープを柱とする広汎な造園活動を展開することを目的とする。</p>		
団体の活動プロフィール	<p>NPO-KALALAを構成するメンバーは、1993年当初からランドスケープ問題に関して、海外、国内の研修視察を行い、情報の収集と交流に努めて来た。ヒートアイランド現象が著しい都市環境に対して緑化による環境の改善が今日の最も重要な課題がある事を再認識した。</p> <p>これについては、大気とランドスケープとの相互的な関係を緑化の観点から検討し、その解決を目指す方策を確立するために衆知を結集する必要がある。</p> <p>このため京阪神を中心とする地域の市民、特にランドスケープ問題に関心をもつ延べ500人を越す人達に、現地研修と講演などすべてに活動して来た経緯がある。</p> <p>現在はこの活動歴を背景に蓄積されたノウハウを生かし、活動の拡大と深化をはかりつつある。</p>		

活動事業費(平成14年度) 円

## 政策のテーマ

## 立体駐車場（駐車場）の修景緑化

## 政策の分野

- ・ 地球温暖化の防止  
ヒートアイランド対策（都市緑化）

## 政策の手段

- ・ 条例化、税制措置、助成金

団体名：（申請中）特定非営利活動法人  
関西修景自由作家連合 [ NPO  
KALALA ]

担当者名：橋本 庄弐

**政策の目的**

都市活動の必要悪とも言われる、駐車場の立体化など、景観的に良くない構造物の顕在化を抑制すると共に、大気のコ<sub>2</sub>問題を改善するなどの環境問題に関する対応を目的とする。

**背景および現状の問題点**

日本の大都市に於ける都市化の進行に伴う、ヒートアイランド現象の拡大は建築の高密化など地表の人工物による被覆は自動車交通の増加に伴う駐車場需要の増大によって加速されつつある。

これと関係した駐車場の立体化は都市景観に好ましくないインパクトを与えると共に、周辺に高濃度の自動車排気ガスの放出が増加する事となり、先端的な都市環境問題をまねくことになっており、的確な対応が求められつつある。

**政策の概要**

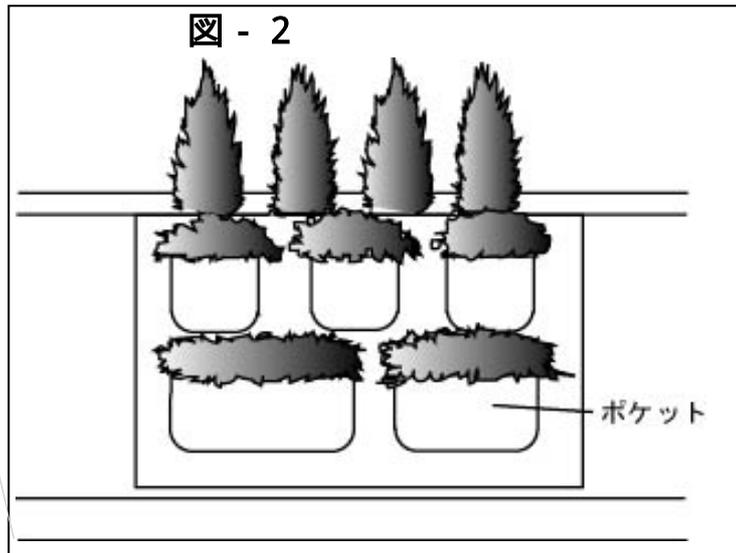
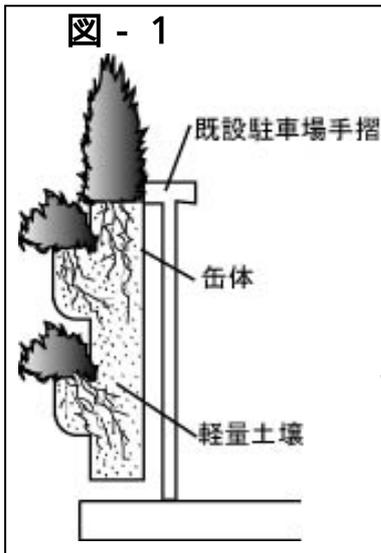
立体駐車場については一定規模以上の壁面で、道路に面した部分に対して義務化し、助成を行う。

平面駐車場については、駐車スペースだけではなく、通路等も緑化義務づけを行い、助成を行う。

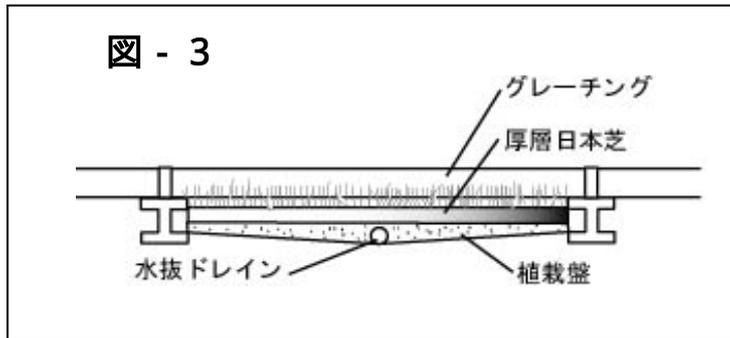
**政策の実施方法と全体の仕組み**

## &lt; 立体駐車場壁面緑化 &gt;

従来の壁面緑化は樹木によるエスパリアや、ツタによる緑化が中心であったが、新技術は土が入った缶体と植物を植えるポケットによって成り立っている。土の入る部分は巾1.0m高さ0.5m奥行き15cmで、両面または片側に数個のポケットを取り付け、そのポケットに植栽する形式で植物は垂直に植えられ、根は成長に応じて缶体に入り、土のボリュームが多く、多種多様な植物の植付が可能であり、維持管理に多く手が掛からない構造である。（図 - 1 , 図 - 2 参照）



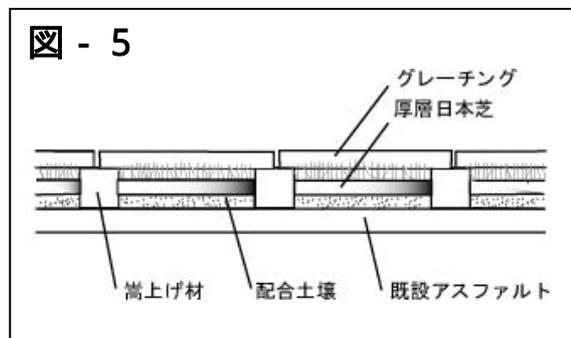
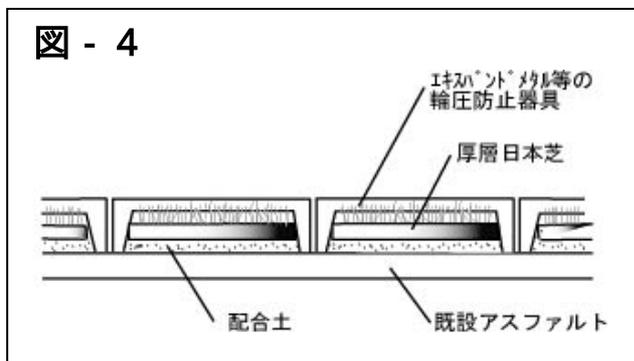
また、立体駐車場の最上階の緑化は、屋上面（グレーチング）の下に植栽盤を取り付け、厚層日本芝を張り、緑化を図るものである。（図 - 3）参照



< 平面駐車場緑化 >

既存アスファルトを撤去する事なく芝生化する工法で、グレーチング等の溝蓋でアスファルト面と溝蓋の間に10cm程度の空間を作り、アスファルトには水抜穴を開け、その上に3~5cmの植生土を敷き、その上に厚層日本芝を張る構造で成長に伴い溝蓋の目の間から葉を伸ばし、緑となる。

芝生化には駐車スペースだけでなく駐車場全体の芝生化を提案するものである。（図 - 4,5参照）



## 政策の実施主体

環境規制により罰則を伴う義務化を法制化する事によって、NPO-KALALAは一般市民と共に、自動車利用者や駐車場管理者に対して、国及び地方公共団体の税制措置や助成金制度の利用の仕方について、PRや提案を行い、さらには設計・施工・維持管理に対して協力、助言を行う。

## 政策の実施により期待される効果

既に屋上緑化の施工については助成対策が具体化することによって2001年に109件1091.75haが緑化された。さらに都23区に於いても義務化または義務化予定を検討している区が多く、屋上緑化は拡大しつつある。

構造物の外観を刷新する壁面緑化はメンテナンスの困難が従来の弱点であったが、新しい技術・工法の開発による改善を契機にして屋上緑化の場合を越える成果が考えられる。しかもその課題が壁面緑化の当初施工における資本の問題であると考えれば、これを補助する政策の実施はこの工法を通じて行われる壁面緑化の飛躍的な拡大、さらには都市の“みどり”による修景と環境の改善に資するところが大きい。

## その他・特記事項

都市立体駐車場の壁面緑化を維持管理の容易な工法によって実現するプロジェクトは、今日の日本において都市のセーフティーと共にアメニティーを高める上に有効なものと考えられる。

また、その成功はウィーンのフンデルトワッサーハウス（百泉邸）のように都市環境の景観的改善を通じて地区の活性化をもたらす、環境学習の拠点となる可能性がある。

現実に空間の貴重な都市において、地積を有効に活用する壁面（壁体）の緑化はこれにふさわしい工法と素材の開発によって日本の都市に新しい可能性を生むであろう。

それは無味乾燥な建築部の中に「緑の館」を生み出して、紀元前にさかのぼるバビロンのハンギングガーデンの英知を再生させる21世紀の新しい都市景観を創造する可能性をもつ。アーバンオアシス実現への1歩となろう。

その可能性は今夏の地球温暖化による炎暑や都市景観の劣化から指摘されると共に都市の必要悪とも言われる駐車場の問題への確に対応し、その高濃度CO<sub>2</sub>の緩和や景観の改善に合理的な解決を示している。

当然、大気問題の改善結果は人類共通の課題に公平な成果を与える上にこのような緑化問題に対する有効な解決策を生む。この提案は新しい問題に対して画期的な新規性をもち、実現に至る多くの示唆をもつと考えられる。

終わりに壁面の緑化に関する新しい手法の確立は、今日の流行であるガーデニングなどを通じ新しいパトナシップを生み出す場と機会を提唱するものであることを強調したい。